教育後援会報

京都府立農芸高等学校

第36号

平成31年3月

発行　京都府立農芸高等学校 教育後援会　　編集　同事務局

夢を実現する農学の楽しさ！

教育後援会長
藤田　洋嗣

農業の基礎知識をしっかり学んで、その知識で衣・食・住を改善する工夫や研究に繋げる生き方。そんな講演の一部を拝聴しようと、昨年6月と11月に行われた東京大学農学部の公開セミナーに参加しました。今回は食と住の2つの講演を紹介します。

1「未来を拓け！環境にやさしいバイオプラスチック」生物材料科学専攻の岩田忠久先生の講演

プラスチックは、主に石油からつくられ、軽くて、丈夫で、長持ちするが、特に廃棄においては環境面への悪影響が大きい。バイオプラスチックは、水と二酸化炭素から光合成をおこなって成長した植物（木質バイオマス）を微生物変換や化学変換することによってつくられ、廃棄の際には微生物の分泌する酵素の働きにより、水と二酸化炭素に分解されるプラスチックである。

(1)　糖や植物油の炭素源に微生物を働かせると、バイオポリエステルをつくることができる。これは、マルチフイルム、植樹用のポット、釣り針等に用途がある。

(2)　木材のセルロースや、エビやカニなどの甲殻類から抽出されるキチンなどの天然多糖類にミドリ虫（ユーグレナ）を働かせてつくることができる。これはフイルムや繊維に利用される。

(3)　砂糖水に虫歯菌の中から取り出した酵素を加えてつくることができる。これにより今までのポリエチレンやナイロンより優れた熱的性質をもつエンジニアリンプラスチックが生成され、さまざまな分野での利用が期待されている。

※　これらの普及は、最近問題になっている「海に蓄積された海洋ゴミ」の対応策の一つとなる。10月14日付の京都新聞には「プラスチックの植物素材拡大目指す」という記事が出た。

2「食によって健康寿命を伸ばす」応用生命化学専攻の佐藤隆一郎先生の講演

健康寿命とは、日常的に「介護を必要としないで、自立した生活ができる生存期間」を言い、現在の日本では男子71歳、女子74歳である。沖縄は少し前まで日本一の長寿県であったが、食生活が海の幸に富んだ琉球食から、カロリー過多のアメリカ食へと変化して肥満傾向が広まり、30位前後まで順位を下げた。結論として、動物性の脂肪や炭水化物を過剰摂取すると寿命の伸びが鈍ることが分かる。食の力によって私たちの健康寿命を伸ばしていきたい。

※　これと同じことがNHKの教養番組「ガッテン」でも取り上げられ、不飽和脂肪酸の多い油（この油は体内でつくれない）、例えば青魚の油やエゴマ油、アマニ油は体に良く、1日にスプーン1杯摂取すると心臓疾患の予防になり、2週間続けると1キログラム体重が減るという（ただし、基本的には油はカロリーが高いので、摂りすぎには注意が必要）。

以上、多く聴いた講演の中で、その一部を皆さんにお知らせし、農業の奥深さや広がり、また農業を学ぶ楽しさを知っていただければと思います。

さて、教育後援会は、この会報をご覧いただくとご理解いただけるように、本校に入学した生徒の皆さんが在学中に能力を高める活動をする際に必要な支援をする組織で、部活動・農業クラブ活動・学校行事などを支援しています。

卒業生の保護者の皆様にはこの主旨をご理解いただき、引き続きご支援いただきたいと思います。また、在学生の保護者の皆様には他高校にはない、この組織をご活用いただき、お子様が高校生活をより一層充実できるよう激励してあげてください。

結びにあたり、卒業生の皆さんの前途を祝し、合わせて在校生の皆さんの校内外でのさまざまな分野でのご活躍を期待しています。

販売する椎茸の原木は、「在校生の生徒の活動を支援する基金」の一部にするために準備しました。ぜひご協力いただき、春と秋に出る椎茸を育ててください。

平成30年度 卒業生進路決定　進路状況

平成31年1月31日現在

Ⅰ．進路状況

企業名・学校名については一部略
（　）内は内定・合格者実数

学　科	就　職	進　学	その他	合　計
農産バイオ科	31（31）	29（29）	0（0）	60（60）
（男子）	20（20）	24（24）	0（0）	44（44）
（女子）	11（11）	5（5）	0（0）	16（16）
環境緑地科	14（14）	4（4）	0（0）	18（18）
（男子）	13（13）	3（3）	0（0）	18（18）
（女子）	1（1）	1（1）	0（0）	1（1）
合　計	45（45）	33（33）	0（0）	78（78）

Ⅱ．就職内定状況

内定者実数　＊下記企業名は順不同

学　科	農･建設･造園	製　造	運輸・通信	卸・小売	サービス	公務員 他	合　計
農産バイオ科	3	18	1	1	4	4	31
環境緑地科	7	6	1	0	0	0	14
合　計	10	24	2	1	4	4	45

【農･建設･造園】　西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社、西日本高速道路メンテナンス関西株式会社、山崎建設株式会社大阪支店《２名》、一志株式会社、株式会社河原造園、村田鉄筋株式会社、株式会社日吉ファーム、株式会社大田原農場、有限会社本梅森造園土木

【製　造】　山崎製パン株式会社《３名》、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社、株式会社虎屋、株式会社鶴屋吉信、株式会社湖池屋、ニチコン亀岡株式会社、日清医療食品株式会社ヘルスケアファクトリー亀岡、日本ジフィー食品株式会社、日本アイ・ティ・エフ株式会社《２名》、十川産業株式会社京都工場《２名》、ボルツ株式会社能勢工場、厚木化成株式会社、株式会社エフピコ中部近畿亀岡工場、京都エレクトロン株式会社、株式会社タイヨーアクリス、開明伸銅株式会社、株式会社煌、田中熱工株式会社、株式会社エイ・エフ・ジー

【運輸・通信】　日本郵便株式会社近畿支社、株式会社元気支援システム（五健堂グループ）

【卸・小　売】　株式会社京都アニマルフード

【サービス】　株式会社サッポロライオン、株式会社フクナガ、株式会社イノダコーヒ、株式会社乗馬クラブクレイン

【公務員　他】　京都府職員（初級畜産）、自衛隊《３名》

Ⅲ．進学合格状況

延べ人数　＊下記学校名は順不同

学　科	大　学	短期大学	農業大学校	専修各種学校	合　計
農産バイオ科	13	1	2	15	31
環境緑地科	3	0	0	1	4
合　計	16	1	2	16	35

【大　学】　龍谷大学（農学部）、日本大学（生物資源学部）、東京農業大学（農学部）、京都学国語大学（外国語学部）《２名》、京都文教大学（臨床心理学部）、長浜バイオ大学（バイオサイエンス学部）、南九州大学（環境園芸学部）、京都学園大学（京都先端科学大学）《バイオ環境学部２名、経済経営学部３名》、大阪産業大学（工学部）、大阪学院大学（経済学部）、吉備国際大学（農学部）

【短期大学】　大分短期大学（農学部）

【農業大学校】　京都府立農業大学校《２名》

【専修各種学校】　公立南丹看護専門学校、金沢医療技術専門学校、京都医療文化専門学校、京都医健専門学校、修成建設専門学校、京都保育福祉専門学校、京都IT専門学校《２名》、京都製菓製パン技術専門学校《２名》、大阪動物専門学校、大阪ECO動物海洋専門学校、東京モード学園、YIC京都ペット専門学校、北海道農業専門学校、JBBA研修生

求人のお願い

近年、高校生の就職に関しては「売り手市場」の状況が続き、本校の求人状況も順調に推移しています。しかし、農芸で学んだことを活かして働くことのできる企業・事業所ばかりだとは限りません。望ましい求人情報がありましたら、進路指導部までご提供ください。

農芸高校 TEL：0771（65）0013

会費及び寄附金についてのお願い

本会は、在校生・在職教職員の会費と、卒業生・卒業生保護者の会費、一般会員の寄附金（1口1,000円）で運営されています。出費多端の折、誠の恐縮に存じますが、ご理解の上、ご支援、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

■一般会員寄附金　1口　1,000円　　■在校生・在職教職員会費　年　500円
■卒業生・卒業生保護者会費　5,000円・3,000円（卒業時に納入）
※ 京都府立農芸高等学校教育後援会振替口座番号（京都　01080-1-9234）

なお本会への寄附とは別に、下記のような農芸高校に対する寄附事業が始まっております。
「京都府母校応援ふるさと事業」;「ふるさと納税制度」を活用した事業で、各校が目的達成のため必要とする金額目標を掲げ、寄附を募っています。寄附額に応じて所得税・住民税が控除されます。

ホームページの活用と会報誌の送付について

農芸高校のホームページに教育後援会のコーナーを設け、活動内容を掲載しております。逐次更新をしてまいりますので、時々チェックしてください。なお、会報誌の送付は、卒業後10年までとさせていただいております。ご了承いただきますようお願い申し上げます。

挑戦と進化　目指せ Next Stage!!

校長　長谷川　清隆

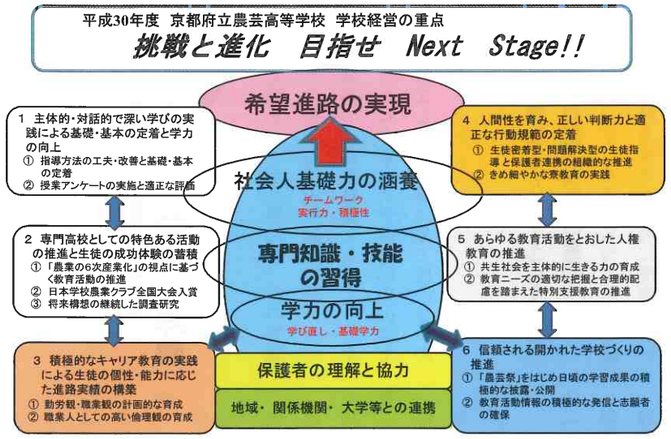
教育後援会の会員の皆様には、ますますご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。日頃は、本校教育の推進に温かいご支援を賜り、心からお礼申し上げます。

さて、標題の「挑戦と進化目指せ Next Stage!!」は、今年度の農芸高校の学校経営主題であり、教育活動のテーマであります。これには、生徒、あるいは先生方に新たなことに挑戦し、ステップアップしてほしい、そして学校としてもワンランクアップしたい、そのような願いを込めて定めたものです。

そして、このテーマを達成するために、6つの目標と13の重点事項を学校経営の重点事項として取組み、学び直しも含めた「学力向上」と各学科・コースの専門知識・技能の習得、そしてチームワークや実行力、積極性などの社会人基礎力を身につけ、生徒の希望進路を実現することを究極の目標としています（左図を参照してください）。

従って、今年度の農芸高校の教育活動は全て、このテーマのもと、行ってきましたし、今年度の農芸祭においてもこのテーマを反映したスローガンを生徒達は策定しました。本誌面において、今年度の生徒達の活動状況を、ご確認いただければ幸いです。

今後も本校が Next Stage にしっかり向かえるよう、取り組んでまいりますので、引き続き、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



第36回農芸祭報告

「今こそ見せろ！ 農の力 ～挑戦と進化目指せNEXTステージ～」のスローガンのもと、第36回農芸祭を11月23日（金・祝）に実施しました。天候にも恵まれ、昨年を超える2、500名の来場者となりました。運営にあたった本校生徒・教職員だけではなく、PTA、船南同窓会、そして教育後援会の皆様のお力添えで、大成功のもと終えることができ、ありがとうございました。

天候不順で販売に必要な生産物が準備できないといった状況でしたが、野菜コースと造園部がコラボした軽トラガーデン、野菜コースのトマトを使用したジェラート販売など新たな取組にも挑戦しました。販売や案内、体験指導を行っている生徒たちの顔は笑顔にあふれ、日頃の実験・実習では体験できないことを農芸祭で経験し、一段と成長した姿を見ることができました。さらに、教育後援会では、昨年同様、焼きそばといたけ原木販売で、農芸祭を盛り上げていただきました。

また、昨年度は農芸祭後に行った農芸感謝祭ですが、本年度は農芸祭1週間前の11月16日(金)に実施しました。メニューは、焼きそば、おにぎり、ポトフで、日頃の学習の成果に感謝し、生産物をいただき、農芸祭に向けての英気を養いました。

農芸祭は、これまでの伝統に加え、毎年新たな取り組みに挑戦し、年々進化していくことと思います。教育後援会の皆様には、今後とも農芸祭への熱い援助をお願いし、第36回農芸祭の報告とさせていただきます。

（農場部長　岸根　一宏）

「畜産女子育成プロジェクト」ニュージーランド研修

農産バイオ科　湯浅　維

国際農業者交流協会主催の第一回畜産女子育成プロジェクトに、全国の畜産を学ぶ農業高校生の代表として選ばれた2年生の石塚優花を含む20名を引率してきました。

この研修は、8月19日～28日の9日間、ニュージーランドで畜産に関する牧場や施設を見学することで、畜産アンバサダー（大使、使節、代表）を育成することが目的です。研修場所は、牧場、乳業会社、専門学校、HUBと呼ばれる研究農場などでした。特に、畜産業に携わる女性たちにスポットが当てられ、生き生きと誇りを持って仕事をする姿をみることができました。生徒たちも、土地条件や気候、乳量の単位さえも異なるニュージーランド酪農の中から、いかに、これからの日本の畜産に活かせるヒントを探し出すことができるかと、拙い英語で一生懸命質問をし、少しでも学びとろうとする熱意が感じられました。この研修で得たものを生かし、これから畜産業を盛り上げてくれるであろう彼女たちに期待しております。

技能五輪全国大会

次世代のものづくりを担う青年技能者が「技」の日本一を競い合う「第56回技能五輪全国大会」が、沖縄県において、平成30年11月2日～11月5日に開催されました。

今大会には、全国から様々な職種の若手技術者や学生らが集まり、種目ごとに日本一を目指します。

この大会の造園職種に造園部2年生の大西陽生郎と野邊翔の2名がペアを組み、京都府職業能力開発協会の推薦を受け、京都府代表の選手として出場しました。

大西は2年連続の出場、野邊は初めての出場となりました。

競技は二人一組で行われ、2日間10時間半の制限時間内に出題された課題を作成していきます。今回の課題は6.0×4.0mの区画に、琉球石灰岩の野面積み、乱貼り、小舗石の敷石、竹垣、ベンチ、植栽など課題が設けられ、選手の総合的な技能の熟練度と感性、精度が試されます。

2人は入賞を目指して、放課後、夜間まで、また土日を返上して3か月間の練習に取り組んできました。大西は前回大会も出場しており、先に行われた、若年者ものづくり競技大会で銅賞を獲得するなど技量と精神力が身についてきました。一方、野邊は経験不足を練習量で補い、丁寧な作業を心がけ、大会までの練習を取り組みました。

迎えた本番、1日目は開始直前から大雨となり、開始時間が45分遅れ、課題の一部が取り除かれるというハプニングに見舞われました。開始後も雨は降り続け、作業は困難でしたが規定の所まで仕上げることができました。2日目も小雨の中で予定通りに開始され、時折強く降る雨の中の作業となりました。それでも、練習通り淡々と作業を進め、標準時間内に余裕を持っての終了となりました。途中失敗もありましたが、うまくリカバーすることでよい仕上がりとなりました。世界大会の基準に近づけた、これまでで一番難しいと言われた課題、また、悪天候でハプニングが起こる中で標準時間内に見事に完成することができました。

翌日の閉会式の結果発表にて、敢闘賞を受賞しました。4大会ぶりの入賞となりました。金賞から銅賞までの入賞者の大半を社会人の職人が占め、本校の敢闘は学生の中では2位という好成績でした。

また、銅賞のところに卒業生の高崎の名前があり、同時に嬉しく思いました。

今大会はこれまでより多くの方々のご支援により、出場することができ入賞という結果を得ることができました。出場生徒は多くのプロの中で競技し逞しくやり遂げました。この経験での充実感とともに、大会通して出会えた業界の方々、先輩、仲間との絆が大きな収穫となりました。

多方面の方々にご指導やご援助いただき大変感謝しています。これから連続上位入賞ができるよう努力を惜しまず頑張っていきたいと思います。

日本菊花全国大会

農産バイオ科・草花部顧問　八里　修平

今年も10月20日～11月23日に大阪府和泉市㈱国華園で開催されました第35回日本菊花全国大会に草花部で栽培した菊を出品させていただきました。この大会は日本各地から名人と呼ばれる方々が出品し、部門ごとに花容、品位、培養を競う大会で、菊の日本一決定戦とも言われています。昨年同様今年も、福助花壇の部と三本立て12鉢花壇の部に出品させていただきました。

三本立て12鉢花壇の部では審査日までの来場者の投票によって決まるファン投票1位のアメリカ領事館賞と貝塚市長賞をいただくことができました。福助花壇は基準の寸法をオーバーし、失格となってしまいました。今年は夏が暑く、また台風に悩まされ、9月には急に涼しくなりと、栽培するのも大変な年となりました。毎年のことですが、その年の気候を読み、如何に対応するかが求められているように感じます。審査前の花の手入れは3日前から、1年生から3年生まで全員で取り組んでくれました。その結果、上位入賞することができた1年でした。

年々、菊の作り手が減っている中、今年は課題研究の授業で近隣の亀岡市立本梅小学校の全校生徒と一緒に菊づくりを行いました。本校の生徒や一緒に活動をしてくれた小学生が将来、日本の伝統的な園芸文化の担い手となってくれればと思っています。

部活動および農業クラブ専門委員会

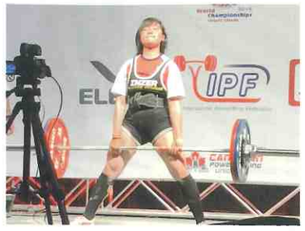
パワーリフティング部 世界大会報告

昨年6月、カナダ・カルガリーで開催されました「2018年世界クラシックパワーリフティング選手権大会」に、2年2組の松本葵さんが日本代表選手として出場しました。

松本さんは昨年2月に沖縄県で開催された「第22回ジャパンクラシックパワーリフティング選手権大会」に出場し、サブジュニア女子72kg級で優勝し、世界大会への切符を獲得しました。

初めての世界大会で大きな緊張の中での試合で、上位入賞にはなりませんでしたが、全種目で自己ベストを更新し、来年への決意を新たにしました。大会期間中は、日本選手団だけでなく様々な国の選手とも交流し、国際的な視野を持つ選手となる一助となったのではないでしょうか。パワーリフティング部員が毎年このような機会を得ることができるのは、教育後援会並びにPTA、学校関係者の皆様方から多大なご支援、ご声援をいただいたおかげです。誠にありがとうございます。

今年もパワーリフティング部は「心優しき力持ち」と校訓である「質実剛健」を掲げ、周囲への感謝の気持ちを持って、常に謙虚に目標に向かって努力し続けます。今後ともご指導、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



硬式野球部

平成30年度は秋季大会に連合チームとして出場し2次戦進出を果たすなど、全国的にも珍しい快挙を成し遂げました。当然ながら連合である以上、校風・ユニホーム・球歴など、すべてが異なる生徒同士が集い、チームを作ることから始まります。本校の部員2名は、そうした環境の中で積極的にコミュニケーションをとり、チーム内での信頼を獲得していきました。公式戦で勝利を重ねるごとに、いつしか連合のベンチ内では当たり前のように学校の枠を越えて仲間を励まし合う声が飛び交っていました。そんな光景に、子どもたちの「強さ」を感じました。

2018年世界クラシックパワーリフティング選手権大会出場支援基金会計報告

平成30年6月6日～17日
カナダ・カルガリー

収入の部　(単位：円)

項目	金額	備考
前回からの繰越金	1,240	
支援金	396,600	
合計	397,840	

支出の部　(単位：円)

項目	金額	備考
支援金	220,000	
郵送料	42,886	出場生徒１名、引率教員１名
金封袋	1,080	
合計	263,966	

397,840円－263,966円＝133,874円は次回の世界大会出場時の支援金とさせていただきます。
ご支援、ありがとうございました。

さて、私たち農芸高校硬式野球部は日々の活動で、
①目標達成のために、顧問が生徒を本気でコミットさせることができているか。
②生徒・顧問が共通目標を持ち、それに集中できる環境をいかに整えるか。
③「行動を起こす責任（生徒）」と「結果に対する責任（顧問）」を共有できているか。
という三点を意識して（させて）取り組んでいます。来年度は、また違った野球部をお見せできると、選手・顧問一同確信しています。今後も、硬式野球部へのご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

陸上競技部

陸上競技部は、3年生2名、1年生2名の4名で活動を行いました。

参加した大会は、4月の京都府春季陸上競技大会、5月の京都府総合体育大会（市内ブロック）、11月の京都府国立・公立大会でした。少人数で、お互いに競い合って練習をするという環境ではなく、大会へ向けての十分な練習ができているとは言えない状況ですが、限られた練習場所で、部員一人ひとりがメニューを工夫し、練習に取り組んでいます。

大会に出場し、大きな成果を残すといった派手さはありませんが、日々の練習でこつこつと努力し、日頃の努力の成果を大会に出場して確認するということができました。少人数での地道な活動ではありますが、今後ともご支援のほどよろしくお願いします。

バドミントン部

今年度、3年生3名、2年生10名、1年生6名の計19名で活動してきました。バドミントン経験者の1年生が入部したこともあり、活気のある部活動となっています。日々の練習では2年生が部活を引っ張ってくれ、しっかり活動しており、技術の向上に努めています。大きな大会では思うような結果を残せていませんが、来年度はさらなる飛躍につながるように、部員が日々、技を競いながら活動しています。

今後ともバドミントン部の活動にご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

硬式テニス部

硬式テニス部は、現在2年生5名（うち女子1名）、1年生3名の計8名で活動しています。初心者から始めた1年生が、2年生となり現在のクラブを引っ張ってくれています。

平日の練習に加え、土日も外部練習を行うなど、今年度は積極的に活動し、高体連以外の試合（京都のジュニアの大会、亀岡市の大会など）や練習試合も行い、技術を磨いてきました。個人のプレーが中心のテニスですが、日々の練習ではチームを意識し、礼儀・マナーを正して活動することを目標とし、これからも人間性や忍耐力を磨いていきたいと思います。

今後とも温かいご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

サッカー部

「農芸高校として、公式戦に出場したい。」昨年度の3月、あるサッカー部員が話していた言葉です。その言葉を聞いたとき、なんとか単独チームで出場させたい、そのためにも部員が集まる環境を整えたいと考えたことを今でも覚えています。

上級生の気持ちが通じたのか、今年度のサッカー部は、マネージャーを含め1年生7名が入部し、11名以上の部としてスタートすることができました。4月のインターハイ予選もなんとか手続きが間に合い、農芸高校として出場しました。その後も、暑い夏を乗り越え、無事6～9月のU-18のリーグ戦、10月の選手権大会を戦いきることができました。引退した3年生は今どのように感じているのでしょうか。「続けてよかった」と感じているでしょうか。

顧問として何が正解なのかを今でも自問自答しますが、自信をもって言えることがあります。それは、3年生が、今の「農芸高校サッカー部の土台」を作ってくれたということです。1、2年生には、彼らが大事にしてきた「チーム意識」と「感謝の気持ち」を引き継いでほしいと思います。

今後もサッカーを通じて社会性を育んでいきます。来年度も温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

卓球部

今年度の卓球部は1年生が4名、2年生が2名所属しています。未経験者が多く、基礎技術の習得を目指し、「1セット、1点でも多く取る」という気持ちで練習に打ち込んでおります。部活動だけでなく学習活動にも積極的に参加し、学業との両立を目指しております。今後も応援よろしくお願いします。

男子バスケットボール部

今年度は、3年生6名、2年生5名、1年生7名、マネージャー1名（2年）の合計18名で活動がスタートしました。3年生は11月のウィンターカップで引退したため、現在は12名となっています。引退を迎えた3年生から、後輩たちへ「ぜひ勝てるチームを作ってほしい」「そのためには練習をしっかりして積み重ねないと勝てない」という思いを伝えてくれました。「勝つための練習とは」「勝てるチームの行動とは」について、2年生中心に話し合い、新チームになってからは、練習量だけでなく、「自分で考える」ことのできる選手になること、学校生活もしっかりできる選手になることをテーマに部活動に取り組んでいます。まだまだ、甘い部分があり、しんどい気持ちや周りに流されてしまうことから練習が積み重ねられない選手もいるのが現状です。しかし、幹部となる2年生が前に立ち、チームの課題が見つかったときは、その都度ミーティングを開き、後輩に思いを伝えるなど少しずつチームとして成長しようとしています。

「しんどいときこそ楽しく！」「やるとき、楽しむ時のメリハリをつける」「応援してもらえる選手、チーム」を目指して、まずは1勝できるよう精進してまいります。今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。

柔道部

昨年度、これまで柔道部を牽引してきた3年生が卒業し、新入生の入部もなく、今年度は新3年生2名での活動となりました。そのため、毎年出場していた公立高校大会（団体）への出場もできず、現在、現役で活動する生徒はいない状況です。しかしながら、3年生の中野君はパワーリフティング部に転部し、今までの柔道部の活動で培ってきた力を発揮して各種の大会で入賞を果たしました。日々部活動を継続してきた賜だと思っています。

剣道部

剣道部は今年度、初心者3名を含む6名の1年生を迎え、9名で活動しました。今年度はすべての公式戦にエントリーできました。また、公式戦のみならず、府内、府外の錬成会への参加、近隣の園部高校との合同稽古、8月には5回目となる本校で実施した夏季合同合宿の開催などで、他校生との交流も積極的に行うことができました。部員増加に伴い、亀岡市剣道連盟の先生を外部指導者に迎え入れ、指導に当たっていただいたおかげもあり、初心者で剣道を始めた生徒が初段に合格する等、充実した1年間でした。引き続きご支援を賜りますよう、お願いいたします。

パワーリフティング部

パワーリフティング部は現在1年生2名、2年生3名で活動しています。12月に引退試合を終えた3年生も練習に参加し、1、2年生のサポートをしてくれています。

創部以来掲げる「心優しき力持ち」をモットーに、ただの力持ちではなく、人としての成長を目指し、応援してくださる方や毎日練習ができる環境に感謝し、日々の活動に励んでいます。

茶道部

現在3年生2名、2年生3名、1年生1名の計6名で、裏千家・村上妙子先生のご指導のもと、毎週水曜日に活動しています。お茶の作法とおもてなしの心を学ぶため、集中して稽古に取り組めるよう常に努力しています。日々の練習の成果として、今年度も農芸祭で呈茶をさせていただきました。今後とも温かいご支援をお願い申し上げます。

合唱部

現在合唱部の部員は2名です。亀岡高校と合同で練習し演奏しています。今年は、亀岡の老人会や地域行事の中での演奏などを依頼され、烟河のホールや野外での演奏を楽しみました。歌う喜びだけでなく、聞いてくださる方々と楽しさを分かち合える喜びも経験しました。

植物バイオ部

植物バイオ部は1年生3名、3年生2名で活動してきました。3年生は植物バイオコースにも所属しており、今年一年は、有用植物であるジュンサイと絶滅危惧種のミズニラについて研究し、増殖や保護についての成果が得られました。1年生は圃場での活動が多く、果樹や鉢花の管理に取り組んできましたが、2年生からは各自の研究課題に取り組みます。それぞれの活動が地域の生物資源保護につながるように頑張ります。

畜産部

今年度、畜産部は男子4名、女子3名で活をしてきました。『365日欠かすことのない飼養管理』をテーマに土日祝日問わず、毎日継続して作業を行うことで、物言わぬ家畜たちが発するシグナルに気づく技術を体得するために活動をしています。

平成30年度の共進会では、静岡県御殿場で開催された『第9回全日本B&Wショウ』に参加し本校から出品した（マリリン号）が一等賞を獲得しました。

府外の高校と情報を交換し、プロの酪農家と競うことで生徒たちの将来への視野は広がり自信へと繋がっています。

今後も活躍できるよう精一杯取り組んでまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

造園部

造園部では、技術習得を目指し、造園技能検定の取得に向けての取り組みや校内に植えられた樹木の剪定作業や実習場の管理、施設の改修、補修など、日々の校内美化活動にも取り組んでいます。

本年度も校内整備とし校庭内樹木の剪定を中心に管理作業を行いました。

校外の活動として、近隣寺院の庭園の管理を任せていただき、技術の向上とともにボランティア精神を養うことができ地域に貢献することができました。また、湯ノ花温泉にある旅館「京都・烟河」の玄関前の花壇をベジタブルガーデンとして設計から施工まで行いました。その後、校内においても野菜温室前に野菜部とのコラボレーション企画として、小端積みの技術を活かしベジタブルガーデンを作成しました。また、農芸祭においては軽トラガーデンの作成もしました。

技能五輪全国大会においては造園部から連続で京都府代表として2名1チームで出場しました。過去最難関の課題と当日の悪天候も

あり、目指していた入賞も危ぶまれましたが、臨機応変に対応し、見事「敢闘賞」を受賞しました。この経験を生かして次回は表彰台を目指し頑張っていきたいと思っております。

環境部

環境部では今年度も農業クラブ平板測量競技会に向けての活動と校内環境整備、さらに専門的な資格取得に取り組みました。

7月21日に平板測量競技会の京都府大会を本校で実施しました。今年度は3チーム出場し、大会まで必死に練習・研究を重ねましたが、最優秀賞には届かず優秀賞に終わってしまいました。競技会後は校内の環境整備に取り組み、資材置き場の整備等を行いました。

資格取得については、3級鉄筋技能検定の合格を目指し、コツコツと練習に取り組みました。競技会や校内環境整備、資格取得の取り組みを通し、この1年で専門性を高めることができました。

野菜部

今年度10名の部員が入部し、「おいしい野菜づくり」をテーマに活動してきました。中でも、バジル栽培に取り組み、校内販売やファーマーズマーケットたわわ朝霧においてバジルの苗販売を行い多くの方々に買っていただくことができました。また、本校卒業生であり、亀岡市にある京懐石料理「雅」の西田浩二様のご協力のもと、バジルソースの製造が実現し、商品化することが出来ました。来年度、本格的に販売ができるように計画をしています。その他にもミニトマトやほうれん草、ハクサイやコマツナなど時期に応じた野菜を部員と相談しながら栽培してきました。

また、今年は造園部に依頼し、メロン温室前に花壇を作ってもらいました。この花壇に種をまき、農芸祭で多くの方々に見ていただくことができました。来年度は、引き続き加工に取り組み、商品開発が出来たらと考えています。栽培では、旬にこだわり、おいしい野菜を栽培できるよう指導にあたりたいと考えています。

草花部

今年度の草花部は、今まで取り組んできた多肉植物の栽培・普及活動に加え、植物バイオ部が行ってきた菊作りにも取り組むことで、幅広い園芸分野に関われる専門部活動として活動のステージを広げる一年となりました。特に部員数が増えたことにより生徒間のつながりが増加し、部活動として教育効果の高い活動が出来たと感じています。

1年生から3年生までが協力して取り組んできた菊作りでは、三本仕立て12鉢花壇の部でファン投票1位のアメリカ領事館賞と貝塚市長賞を受賞する事が出来ました。また、多肉植物の栽培では、これまでに繁殖・栽培してきたハオルシアの普及活動として、地元「亀京窯」の陶芸家さんと一緒にハオルシアに適した器を作成し、手作り市などで販売する事が出来ました。

草花部は授業では学びきれない知識や経験を積むことで、農芸高校で学ぶ専門分野の学びを深化させることを目的に活動しています。今後もより一層、専門分野に特化した活動を続けていきたいと思いますので、ご支援賜りますようお願申し上げます。

情報処理部

今年度の情報処理部は、1年生3名の新入部員が加わり、2年生2名と合わせ5名になり活動してきました。第1回オープンスクールでの部活動体験では、中学生に情報処理部の活動紹介を行うとともに、日本語ワープロ検定試験の練習をしてもらいました。

また、農業情報処理競技会に参加し、他校の高校生が参加する中で、日頃のワープロや表計算の練習の成果を試す良い機会となりました。

放課後の活動では、主に日本語ワープロ検定の上位級の取得に向け、主体的に練習に取り組んでいます。

台湾農業研修を終えて

環境緑地科　嘉根　心平

平成25年から始まった本研修も今年で6回目となりました。今年は北桑田高校から5名、須知高校から5名、農芸高校からは全員1年生で19名の計29名という大人数の参加で、生徒達の意識の高さが研修の前から感じとれました。加えて研修を成功させるべく、生徒たちは「グローバルな視点を養う」「プレゼンテーション能力を高める」「質問能力を身につける」という3つの目標を掲げ、1ヶ月前から事前学習に取り組んできました。

初日は台湾の先住民について話を聞いた後、台湾首府大学の実習ホテルへ宿泊しました。初めての台湾での食事は台南料理でした。生徒は食べ慣れない風味と食べきれない量の料理に驚きながらも、楽しく食事をすることができました。

2日目午前は、国立曾文高級農工職業学校との交流です。この高校は1800名の生徒が学ぶ大規模校です。バスを降りると全校生徒総出による花道で迎えられ、体育館での歓迎セレモニーでは体育科生徒による伝統舞踊や挨拶に生徒達はとても感動した様子でした。日本からは、本校1年生・陳柯宇君が流暢な中国語で挨拶し、熱烈歓迎に応えてくれました。その後は、各校で練習をしてきたプレゼンテーションを行いました。続いて、体験研修に移り、曾文高校の生徒に教わりながらジャム作り、レーザー彫刻、焼き菓子作りなどを行いました。はじめは緊張していた様子の生徒達でしたが、最後には一緒に写真を撮ったり握手を交わしたりと別れを惜しむ様子が見られました。

午後は現地のトマト農家を見学しました。本校1年生はまだ学習していない施設栽培に興味津々で、質疑を活発に行い、台湾の農業について学びを深めた様子でした。続いて、日本の水利技術者・八田興一がデザインした「烏山頭ダム」を見学しました。このダムによって広範囲への農業灌漑が可能になり、この地域の農業を大きく変えました。事前学習で力を入れて取り組んだ内容でもあり、生徒達はトマト農家に引き続き、メモを片手に色々なことを吸収しようと説明に耳を傾けていました。

3日目は、台北の青果市場を見学しました。見たことの無いフルーツに胸を躍らせ、見て、触って、食べての体験ができました。ここでは生徒に米の値段を調べるというミッションが課され、現地と日本の物価の違いについても学ぶことができました。午後は生徒が楽しみにしていたB&S台北市内観光です。日本語を勉強している台湾大学の学生が生徒5人に1人ずつ付き添い、約6時間の楽しいひとときを過ごしました。ホテルへ帰宅してきた時の生徒は全員達成感に満たされた顔をしており、また、写真を撮るなどして最後まで学生との別れを惜しんでいました。

最終日は忠烈祠の見学です。忠烈祠では門兵が交代する様子が見学でき、生徒達は行進する兵士を撮影したり、一緒に行進をしたりしました。そして最後の研修は飲茶体験です。本場の烏龍茶を楽しむことができました。

研修を通して、生徒達は「楽しかった！」「外国の人とコミュニケーションがとれて嬉しかった！」「めっちゃ勉強になる！」「来年も参加したい」など積極的な姿勢で取り組んでくれたと同時に海外の文化や習慣を理解する柔軟な姿勢と、国や言葉の壁にとらわれず、自ら積極的に人と関わる力を身につけたと実感します。

生徒達にとってこの台湾研修の経験が自信となり、今後の学校生活や社会でも活躍していく人材となることを期待します。

最後になりましたが、この海外研修にご支援をいただいた教育後援会をはじめ、ご尽力いただいた多くの先生方や関係者の方にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

教育後援会　事業及び会計報告

平成29年度 教育後援会 事業報告

月	日	事業名	内容
4	11	第35回入学式	役員出席
		役員会	総会に向けての協議
4	29	代議員会	事業・決算・予算の審議と承認
6	上旬	生徒募集広報活動支援	広報用ポスター作成、府下中学校配布
		海外農業研修準備	広報・募集開始
6	17	第1回研修事業	多肉植物の寄せ植え／長谷川校長講話・意見交流
9	26	役員会	農芸祭について　ほか
9	28	四者会議	農芸祭について　ほか
11	13	海外農業研修説明会	台湾研修応募者説明会
11	25	第35回農芸祭	模擬店の開催、椎茸ほだ木の販売
11	下旬	終身会費納入依頼	11・12月分で徴収
12	21～24	海外農業研修助成	京都府農業学科高校生海外農業研修（台湾）
3	1	第33回卒業式	役員出席・会報第35号発行
		選考会議	次年度役員案の作成・推挙について
3	24	第2回研修事業	椎茸ほだ木植菌 他

平成29年度 会計決算

収入総額　2,063,772円－支出総額　1,365,825円　＝差引残額　697,947円（次年度へ繰越）

収入の部

単位（円）

科目	本年度予算額	決算額	比較増減	備考
繰越金	689,943	689,943	0	前年度繰越額
会費	908,000	897,500	－10,500	生徒通常 265名 132,500円 職員終身 11名 33,000円 職員通常 42名 21,000円 保護者終身 82名 246,000円 生徒終身 93名 465,000円
寄附金	150,000	147,624	－2,376	26件
事業収入	10,000	328,700	318,700	農芸祭売上 300,700円 卒業式椎茸ほだ木販売 28,000円
雑収入	57	5	－52	貯金利息
合計	1,758,000	2,063,772	305,772	

支出の部

単位（円）

科目	本年度予算額	決算額	比較増減	備考
事務費	280,000	42,562	－237,438	封書・葉書郵送料
会議費	10,000	10,469	469	会議用茶菓子
渉外費	5,000	5,000	0	会長渉外費
旅費	5,000	5,000	0	役員旅費
事業費	640,000	640,953	953	農芸祭・会報発行・研修事業
生徒福祉費	600,000	405,721	－194,279	生徒募集対策費
慶弔費	50,000	103,240	53,240	香資料・支援金
振込手数料	7,000	2,880	－4,120	寄附金振込手数料
特別積立金	150,000	150,000	0	特別積立金
予備費	11,000	0	－11,000	
合計	1,758,000	1,365,825	－392,175	

平成29年度　特別積立金報告

単位（円）

科目	繰越額	本年度積立額	利息	積立金合計額	備考
特別積立金	800,000	150,000	7,684	957,684	※利息は積立開始時からの貯金利息額

平成30年度 教育後援会 事業計画

月	日	事業名	内容
4	10	第36回入学式	役員出席
		役員会	H29事業報告・決算、H30役員・事業計画・予算について
4	28	代議員会	H29事業報告・決算、H30役員・事業計画・予算の審議と承認について
6	上旬	海外農業研修準備	広報・募集開始
6	16	第1回研修事業	草花鉢植え講座／農芸高校将来構想について（長谷川校長）／意見交流
9	20	役員会	農芸祭について　他
9	20	四者会議	農芸祭について　他
10	上旬	生徒募集広報活動支援	広報用ポスター作成・府下中学校配布
11	9	海外農業研修説明会	海外農業研修参加者説明会
11	23	第36回農芸祭	模擬店の開催・椎茸ほだ木の販売
11	下旬	終身会費納入依頼	11・12月分で徴収
12	21～24	海外農業研修助成	京都府農業学科高校生海外農業研修（台湾）
3	1	第34回卒業式	役員出席
		選考会議	次年度役員案の作成・推挙について
		会報発行	第36号発行・椎茸ほだ木の販売
3	下旬	第2回研修事業	椎茸ほだ木植菌　他
4	10	第37回入学式	役員出席・椎茸ほだ木の販売

平成30年度 会計予算

収入の部

単位（円）

科目	本年度予算額(a)	前年度予算額(b)	増減(a)－(b)	備考
繰越金	697,947	689,943	8,004	前年度繰越額
会費	812,500	908,000	－95,500	生徒通常 243名 121,500円 職員終身 8名 24,000円 職員通常 40名 20,000円 保護者終身 79名 237,000円 生徒終身 82名 410,000円
寄附金	150,000	150,000	0	
事業収入	300,000	10,000	290,000	農芸祭売上・椎茸ほだ木販売
雑収入	53	57	－4	
合計	1,960,500	1,758,000	202,500	

支出の部

単位（円）

科目	本年度予算額(a)	前年度予算額(b)	増減(a)－(b)	備考
事務費	150,000	280,000	－130,000	封書・葉書郵送料
会議費	15,000	10,000	5,000	会議用茶菓子
渉外費	10,000	5,000	5,000	会長渉外費
旅費	10,000	5,000	5,000	役員旅費
事業費	800,000	640,000	160,000	生徒校外活動補助 （農業クラブ・部活動等） 農芸祭　椎茸原木・菌床入 会報発行　研修事業
生徒福祉費	700,000	600,000	100,000	生徒募集対策費 （ポスター作成・横断幕製作等）
慶弔費	50,000	50,000	0	香資料・弔電・祝電・祝い金
振込手数料	7,000	7,000	0	寄附金振込手数料
特別積立金	200,000	150,000	50,000	
予備費	18,500	11,000	7,500	
合計	1,960,500	1,758,000	202,500	

平成30年度　特別積立金会計予算

単位（円）

科目	繰越額	本年度積立額	積立合計額	備考
特別積立金	957,684	200,000	1,157,684	